

1 日常の学習状況・課題について

- (1) 授業への取り組みは良好であり、授業中の説明や活動等を通して、9割程度の生徒が「わかる」と感じている。その反面、学んだことを実際のパフォーマンスや、テストとリンクさせることができない生徒も多い。
- (2) 毎時間課している宿題への取り組みは、おおむね良好である。英文を自力で日本語訳する、それをさらに英訳する等、レベルの高い取り組みに挑戦する生徒も増えた。一方で、家庭学習が定着せず、宿題をため込んでしまう生徒も各クラス数名ずついる。
- (3) 4技能のうち、「聞く・読む」ことが得意だと感じている生徒が7割程度である。「聞く」ことについては、授業中に話される英語をしっかりと聞くことに加え、家庭学習でも自主的にリスニング活動等に取り組んでいる生徒が多い。「読む」ことについては、授業で扱う教材に何度も繰り返し取り組むことによって理解度が高まっている。また、単語の小テストに向けての学習が、「読む」力の伸長につながっていると感じている生徒もいる。一方、既習文法事項の定着が十分でなく、英文を読むことに支障をきたしている生徒もいる。
- (4) 4技能のうち、「話す・書く」ことが苦手だと感じている生徒が半数を超える。「話す」ことについては、授業で行っているコミュニケーション活動に積極的に取り組む一方、その成果を可視化できないことや、発音の難しさが苦手意識の要因の一つになっている。「書く」ことについては、苦手意識をもつ生徒の多くが、文法・スペルのミスを理由として挙げている。

2 改善の計画

- (1) 一定期間継続して宿題が提出できていない生徒には、放課後に取り組んで提出させるなど、できなかった分をカバーする機会を設ける。
- (2) リスニングテスト実施時には、スクリプト配布とともにもう一度放送し、生徒が「わかった」と感じられるようにする。長文読解等では、文構造を視覚的に示し、英文のきめ細かな読み方を身に付けさせる。
- (3) リテリングなどの「話す」活動において、ワードカウントを行うなど、生徒の取り組みの成果を可視化する工夫をする。「書く」活動については、ミスがあってもいいということを前提に、内容を充実させていく。また、2週に1回程度、3文英作文に取り組みせ、フィードバックする機会を設ける。

3 プランの評価方法

- (1) 学期ごとに授業アンケートを実施し、変容を確認する。
- (2) 定期テスト終了時に実施する振り返りシートを活用し、定着状態や学習状況を確認